財団だより

第134号

2012.6

多摩川

大丸の堰

武蔵境で西武多摩川線に乗換え終点の是政でおりると殆ど駅前と云った感じの川、多摩川がある。其処に架かった是政橋を右岸にわたる途中上流方向を眺めると、これはまた多摩川五十景の一つ「是政の多摩川」。晴れて空気がクリアーの時ならば富士や秩父連峰等の雄大な姿を望む事が出来るのですが、今回の目的地はその先の大丸の堰。南武線の鉄橋を潜り歩を進めると20分程度で大きく広がる大丸の堰の全貌が目に入ってくる。この大丸の堰は稲城市側に魚が川を上る為の最新式の魚道も整備されて、魚の遡上を助けているとの事。しかし残念ながら鮎の遡上が例年よりも遅れている様で鮎の飛び跳ねを見る事が出来ず、堰周辺の魚道等カメラにおさめて参りました。

Photo & Text
遠藤頴彦(Hidehiko Endo)
渋谷区在住

Contents 目　次

■巻頭言 …… 2
■特別寄稿 …… 3
■特別寄稿 …… 4
■多摩川に学ぶ …… 5
■多摩川散歩 …… 6
■私と多摩川 …… 7
■多摩川スケッチ散歩 …… 8
■歴史・多摩川 …… 10
■環境TOPICS …… 11
■インフォメ・多摩川 …… 12
■財団からのお知らせ …… 15

巻頭言

「語り」で結ぶ東北復興への心

語り部・かたりすと
美しい多摩川フォーラム
副会長
平野　啓子

滝桜の濃い紅色の蕾がびっしりと枝々に大きく膨らみ、中の数輪が咲いています。満開時になるとかなり白っぽい花になるので、この濃い紅を楽しみに散歩に来られる地元の方も多いようです。

寒い春です。付近のさくら湖はこの冬珍しく湖面全部に氷が張ったといいます。寒気が続いていました。語り会「美しき桜心の物語」はそうした今年の東北の春に開かれました。

三春滝桜

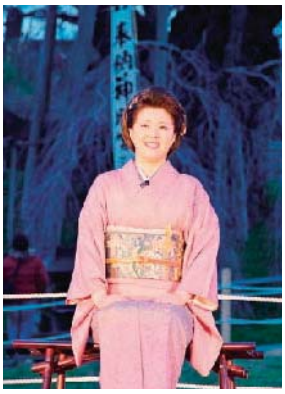
震災復興をかけたこのイベントは、「しだれ桜」（瀬戸内寂聴作）など桜の名作を暗誦する「語り」や地元の話を舞台で上演し、集まった人々と共に、復興への祈りを捧げるものです。県外の人々が被災地に来て、現状を体感し、地元の名産品を食べ、地酒に酔い、お土産を買って帰ってもらいたい。私も被災地で何度となくお聞きした切なる想い。そうした心に沿って、公民連携の地域づくり団体「美しい多摩川フォーラム」（事務局・青梅信用金庫内）が、シンボルプランの「多摩川夢の桜街道」をモデルに、いち早く「東北・夢の桜街道～桜の札所・八十八ヵ所巡り」運動を立ち上げました。「多摩川夢の桜街道」は既に人気の観光バスツアーなどにもなり、多方面のお客様を呼び込む一大イベントになっています。実はこの「語り会」は、そのシンボルプランの中でも実施されてきており、その精神や想いが、まさに東北復興支援にも全て繋がるとして、毎春、東北各県で今後十年間開催されることになりました。記念すべき第一回目が、福島県の三春滝桜（一番札所）だったのです。

福島では、今年、どんなに綺麗に咲いても見てもらえない桜があったり、風評被害により、問題のない農産物が打撃を受け、過剰な心配から福島を通る移動ルートにも影響が出てしまっています。

地元の歴史や文化、美味しいものを紹介して、この土地の良さを伝えたい、そして、地元の人たちにはふるさとを愛し続けてほしいと強く願うばかりです。

昼のリハーサル中に、舞台の回りに通りがかりの人々が大勢集まってきました。地元の話のトーク・リハーサル時には、思いがけず声援や拍手が起こったので、私は驚いて思わず皆さんのお顔をじっと見つめたのです。もしかすると、地元の方は、自分たちの心をふるさとに留めおくための様々な理由やきっかけを、いつも真剣に求めているのではないか、そんなことを真っすぐな視線の中に感じ、ふいに瞼が熱くなりました。

ライトアップされた夜の幻想的な公演には、県内各地のほか、東京など首都圏、岩手や兵庫からもお客様が見え、夜公演ゆえに、多くの方が県内で宿泊されました。また、地元の人たちが何人も、終了直後に真剣なお顔で、「復興の想いが良く伝わったよ」、「先月福島にやっと戻ってきたのよ」と力強くおっしゃいました。



三春滝桜

初回の目的は無事に果たせましたが、その一番の協力者は、寒中に集まってくださった皆様です。心より感謝申し上げます。

この日のことは、多くのマスコミも取り上げてくださいましたが、つい先日、生出演したラジオ番組放送中に、「三春でリハーサルのときに偶然見かけ最後まで聴き入ってしまいました」と、番組宛に、舞台写真が添えられたメールや「感動して鳥肌が立ちました」などのメッセージがたくさん届き、番組の中で紹介されました。あの時の三春滝桜を思い起し、再び目頭が熱くなるのを覚えました。

特別寄稿

東日本大震災復興支援プロジェクト
『東北・夢の桜街道プラン』の実施を振り返って

東北・夢の桜街道推進協議会
事務局長
美しい多摩川フォーラム
事務局長
宮坂　不二生

昨年７月に開催された「美しい多摩川フォーラム」の臨時運営委員会で、東日本大震災復興支援プロジェクト『東北・夢の桜街道プラン』の実施が決まった。大震災発生後４ヵ月が経過してもなお、東北地方では未曾有の事態が続き、さらに風評被害も加わり、東北の復興支援は国民的課題になっていた。美しい多摩川フォーラムが提唱する「人口減少時代の官民広域連携・協働推進による普遍的な地域づくり運動」のスキームが、東北復興に役立つと考え、姉妹関係にあった「美しい山形・最上川フォーラム」に呼び掛け、「桜咲く美しい東北に“愛”に行こう！」をキャッチコピーに、観光振興プラン『東北・夢の桜街道プラン』がスタートした。

これは、日本で最も愛されている美しい“桜”を東北復興のシンボルに掲げ、東北６県の桜の名所を「桜の札所・八十八ヵ所」としてつなぎ、東北復興への祈りを捧げながら札所を巡るというものである。まず観光客の足となる交通機関（航空、鉄道、バス等）や旅行会社にこの運動にご参加いただき、「桜の札所巡りのツアー商品」を開発していただく一方、観光客をお迎えする地元からは、東北６県の知事に応援メッセージ（「桜咲く美しい東北に“愛”に来てください」）をいただき、10月１日に対外公表した。反響は大きく、2ヵ月後には、両フォーラム、旅行関連企業をはじめ、東北６県と東京都の行政、信用金庫業界を構成員とする「東北・夢の桜街道推進協議会」が別途立ち上がり、国（国交省）からは、「官民広域連携主体による東北復興支援事業」として調査事業を受託した。本年４月には、国（東北地方整備局、東北運輸局）、東北観光推進機構も特別委員として新たに協議会に加わった。

年明け以降はこの協議会を中心に、全国に東北復興への祈りを捧げる「東北への桜旅」をPRし、東北支援の国民運動を目指した観光振興による地域づくり運動を推進した。具体的には、全国の116信用金庫の本支店や東北各県の観光協会等に、「東北・夢の桜街道」のポスターを１月から掲示し、桜街道の小冊子や桜マップも配布して、「東北・夢の桜街道」の周知に努めた。中には、東北復興支援を目的とする「桜の札所巡り」のバス旅行を企画する信金も現れた。また、交通機関や旅行会社が「東北・夢の桜街道」の独自ツアー商品を造成した。更に２月には、東京都の後援で、東北復興支援の「東北・夢の桜街道」パネル展（多摩川夢の桜街道展も併設）を新宿駅西口広場で実施した。寒い中、２日間で７千人を超す来場者を集め、アンケートも500通以上集まり、93%の方が「このパネル展を見て東北の桜の札所に行きたくなった」と回答したほか、報道テレビ番組で全国に放映されるなど、報道後の問合せ状況からみても、ＰＲ効果は大きかったようだ。各種新聞報道の中で、ある新聞社が大震災１周年に合わせ、見開き２ページに亘り、「東北・夢の桜街道」の桜の札所をすべて地図付きで全国に紹介した。一方、フォーラムも、３月に「東北・夢の桜街道」の専門ホームページを開設したほか、出版社と協力して「東北・夢の桜街道」の公式ガイドブックも発刊し、広報手段も多様化した。なお、東京の百貨店３店で、「東北・夢の桜街道」のパネル展が開催され、銀座の目抜き通りに面したコーナーに貼られたパネルが人目を引いた。こうした中、フォーラム独自の復興支援イベントも実施した。語りの第一人者、平野啓子氏（当フォーラム副会長）による「“美しき桜心の物語”の語り会」を４月21日に、東北・夢の桜街道の壱番札所、三春滝桜（福島県）にて開催した。ライトアップされた見事な枝振りのしだれ桜のもと、参加された被災者の方には元気をお届けし、一般の方には観光振興にご協力をいただいた。今後は東北６県のうち何れかの県で語り会を毎年開催する。このイベントは、航空、鉄道、高速道路会社の広報誌でも全国に紹介された。

人口減少時代を迎え、今後も否応なく東北の定住人口は減少すると予測されている。『東北・夢の桜街道運動』の今後10年間の継続的な実施により、「交流人口の増加」の見地から、何としても東北復興支援の国民運動につなげていきたいと考えているが、恐らく「記憶の風化」との戦いになるであろう。東北の桜は、それ自体が名木であるだけでなく、日本の原風景が数多く残されている東北の象徴として、海外誘客も含めた観光事業の大きな柱になると確信している。世界からみれば、東北の復興は、日本の復活の象徴でもある。翻って、人口減少の波は、私たちの多摩川流域にも忍び寄ってきている。今後の地域づくり運動に対し、大きな課題を突き付けている。

「語り会」の会場となった三春滝桜（福島県）

特別寄稿

GIS 多摩川源流ミュージアム公開へ

多摩川源流研究所
所長　中村　文明

（1）源流の可視化への第一歩

平成16年10月、小菅村の発議によって、環境省、国土交通省、林野庁などの省庁連携による「源流再生・流域単位の国土の保全と管理に関する国土施策創発調査」が開始され、「21世紀・源流の風土記プロジェクト」、「源流の可視化プロジェクト」、「上下流連携プロジェクト」、「森林再生プロジェクト」、「源流ネットワーク形成プロジェクト」が、それぞれの関係者の参画のもと展開された。

この事業の目的は、過疎化、少子高齢化に伴い様々な問題点を抱えている源流域に対して、流域圏的なアプローチを活用した源流域の再生モデルを構築すると共に、全国の源流域が連携して源流再生を図る行政側の組織「全国源流の郷協議会」を組織し全国の源流の再生をめざすことであった。さらに、上下流連携のシンボルプロジェクトとして多摩川源流大学構想を提案し、源流大学構想検討委員会を開催すると共に全国各地の先進事例を調査し、多摩川の特性と地理的自然的な特徴を活かした多摩川源流に相応しい源流大学構想を検討した。この国土施策創発調査が契機となって全国源流の郷協議会が平成17年11月に、多摩川源流大学が平成19年5月にそれぞれ誕生した。この二つの組織は、現在全国各地の源流再生をめざす取り組みの中核的役割を担うまでに成長している。

ところで、「源流の可視化プロジェクト」は、国土施策創発調査において企画提案はなされたものの十分な成果をあげることができないまま推移したが、小菅村が平成20年～21年に取り組んだ「源流元気再生事業」（内閣府支援事業）においてＧＩＳ「多摩川源流ミュージアム構想」として具体化されることとなり、とうきゅう環境財団の支援を得て3年間の検討と準備を経て平成24年2月1日に公開される運びとなった。様々な技術的な課題を抱えているがここに漸く源流の可視化の第一歩を踏み出すことができた。

（2）GIS「多摩川源流ミュージアム」の内容紹介

多摩川源流ミュージアムには、どんな情報が掲載されているのかといえば、次の（1）多摩川源流・流域情報、（2）小菅村の地名とその由来、（3）多摩川流域水質情報、（4）とうきゅう環境財団研究成果、（5）水辺楽校活動情報の5分野から構成されている。

（1）多摩川源流・流域情報に関しては、源流域を中心に、甲州市一ノ瀬高橋地区、丹波山村、奥多摩町、小菅村に広がる沢や滝、淵などの名称とその由来が詳細に記されている。まだわずかではあるが、観光資源も紹介されている。（2）小菅村の地名とその由来に関しては、小菅村の長作、小永田、白沢、東部、中組、田元、川池、橋立の8地区と各地区ごとの114の小字の名称とその由来が詳しく紹介されている。（3）多摩川流域水質情報は、みずとみどり研究会や多摩川流域の多くの市民団体が多摩川水系の水質の実態を知るために行った身近な川の一斉調査の成果を掲載している。今年で24年目を迎えるという貴重な成果を可視化したもので、水質浄化の経過的状況を認識できるためのグラフやＣＯＤ値の3段階の色分けの工夫などもされている。水質調査の成果をＧＩＳで紹介したのは、全国で初めての試みである。（4）とうきゅう環境財団研究の成果に関しては、学術研究（298）、一般研究（199）のそれぞれの調査地域を「上流」「中流」「下流」「全域」などに分類して表示している。どの地域が調査研究の対象となっているかを容易に視認できる。（5）水辺楽校活動情報に関しては、多摩川流域にある18の水辺楽校の地点と行事を掲載、先行して狛江水辺楽校、とどろき水辺楽校の情報を紹介した。

（3）システムの改善に取り組みより充実したGISへ

Googleの地図を活用すれば、今日本中の地図をすぐに入手できる環境にある。ただ、そこに書き込まれた情報の量は、世田谷区や調布市などの都会と小菅村や奥多摩町日原などの過疎地と比較すると雲泥の差があることが分かる。源流域の様々な情報を、地図情報として視覚的に認識できるＧＩＳ多摩川源流ミュージアムの存在がどれだけ貴重なものであるか、比較検討してみると良く理解できる。学校や会社、自宅などで、視覚的に源流域の情報を入手できるこのシステムは、源流への理解と親近感を広げる上で大きな役割を果たしていくことが出来る。これから、源流デジタル写真館や源流生き物図鑑などもっともっと市民が気楽に源流に親しめる内容を掲載していきたいと思う。

閲覧するに際しては、是非「操作方法」と「掲載している情報について」を参考にしてほしい。元々のシステム上の問題から、Microsoft Internet Explorerのみの対応となっていて、現在のＰＣユーザーの50％強程度のカバーしかできないなどの限界があり、閲覧するまでに幾つかの操作が必要になるなど接続しづらいとか扱いにくいとの批判があるのでシステムの改善は早急に実施したい。ミュージアムの公開を契機に、源流の可視化事業をより一層推進し、多摩川源流再生に貢献したいと思う。

□アドレス
http://tamagen.into/gen/index.html

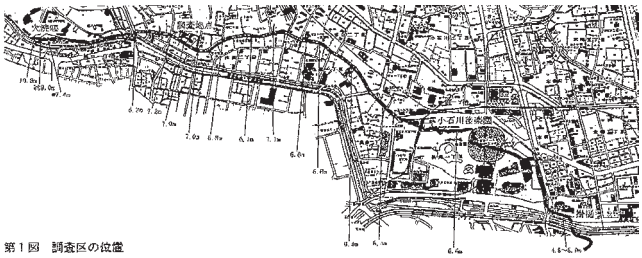
多摩川に学ぶ

神田上水白掘跡の発見

文京区教育委員会
文化財調査員
池田　悦夫

近世都市江戸で最古の上水とされる神田上水の白堀にあたる遺構が、旧文京区立第五中学校の跡地で発見された。本遺構は、平成23年11月から翌24年2月16日まで福祉センター建設に伴い実施された発掘調査で出土したものである。(第1図参照)。

玉川上水と共に二大上水の一つである神田上水は、現在の関口付近で神田川の水を取水し、千代田区や中央区など、当時の江戸市中の約1／4におよぶ範囲の飲料水や生活用水を供給していた水道施設として知られている。



第1図　調査区の位置

この白掘と呼称される間知石の石積みの全長は、60ｍ以上を測る。場所により胴木は前後2列並ぶ形状を呈し、その上に2から3段の石が乗る構造を示す。水路は、新旧の二筋が確認され、検出された遺物から二筋ともに19世紀前・中葉に比定される。先出する白掘筋（写真1参照）は、第2図に示す神田上水の位置とほぼ一致する。

一方、後出する白掘跡（写真2参照）は、砂質凝灰岩が天場石として用いられ前者と異なる。この砂質凝灰岩が、鋸南町で産出される房州元名石であるならば、後出する白掘筋は、明治9年に巻石された白掘の可能性が高くなる。ただし、明治16年の地図とその位置は整合しないが、第3図に示す明治19年の地図は後出の白掘筋と接近する位置にあり、巻石敷設時の白掘の可能性も残る。これら二筋の白掘の切り合い関係から、付随する間知石や胴木の新旧の識別は容易となる。

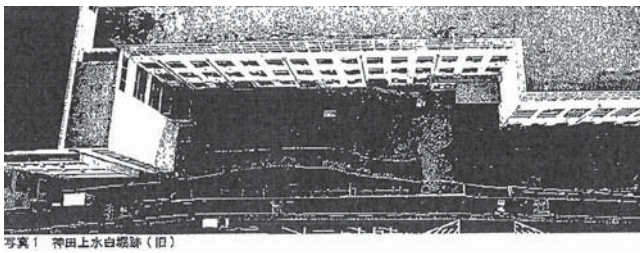
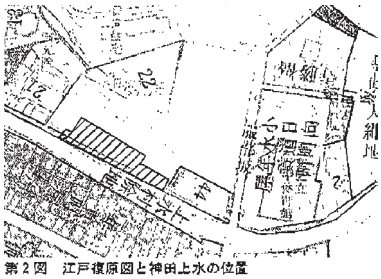


写真1　神田上水白堀跡（旧）

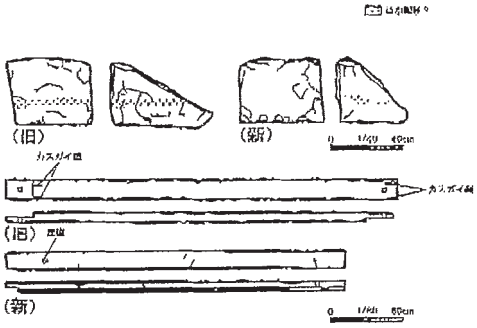


第2図　江戸復原図と神田上水の位置

写真2　神田上水白堀跡（新）

第3図　明治19年地図と神田上水の位置

第4図で示すように時期が下るに従い、間知石と胴木は共に小振りになる傾向を示す。調査の結果、白掘全体の構成や白堀を構成する部位の変化の実態が徐々に見えてきた。神田上水の遺構としては、これまで水道管にあたる石樋等の発見はあったが、神田上水の根幹にあたる白掘の発見は今回が初めてである。この神田上水は文献史料のみで知られていたが、その実態については、ほとんど知られていない。従って今回の白掘の発見は、白掘の具体的な実態を知る上で重要であり、これまでの想像する手掛りさえなかった創建期の神田上水の様相を推測する上で、貴重な資料を提示したと伝える。



第4図　間知石と胴木

明治9年、白掘に蓋石である巻石が施置されたが、当該道路を巻石通りと呼称する由縁はここにあると思われる。飲用水としては明治34年までで、それ以降は砲兵工廠の工業用水、小石川後楽園の池泉水として用いられる。大正初年、巻石は径約3尺の2本の鉄管に姿を変え、昭和10年頃その役割を終える。

なお、平成23年12月等で実施された遺跡見学会では、合計720名以上の見学者が来跡した。白掘の一部は、2015年開館の福祉センターで保存される他、小日向神社、小日向台町小学校そして都水道歴史館での展示の準備が進められている。また石材は、神田上水と所縁の深い小石川後楽園で利用保存が予定されている。今後報告書刊行に向け、神田上水の新知見が得られるものと期待される。

多摩川散歩

多摩川エッセイ

作家
山下　柚実

あなたがよく知っている場所も、あらためて匂いを嗅ぎ、目を凝らし、耳を澄ましながら歩くと、みずみずしい発見が立ち現れてきます。

嗅覚、味覚、視覚、聴覚、触覚。「五感」というテーマをライフワークにしている私は、様々な現場へ出かけて取材・執筆活動を続けています(http://www.yuzumi.com)。特に、東京生まれ東京育ちとして「東京」にこだわり、『五感で楽しむ東京散歩』(岩波アクティブ新書）などの書籍を通して、「東京」を「五感」で味わう楽しさを伝えたいと思いながら仕事をしてきました。

先日は「撮影所と多摩川の風景」(2012年3月17日紙面）というエッセイを東京新聞に書きました。きっかけはふと、若い頃に仕事で訪ねた「日活撮影所」を思い出したこと。今はどうなっているだろうかと、調布駅から多摩川べりへと足をのばしてみたのです。かつての広大な撮影所は時の流れとともに縮小し宅地化し、その激変ぶりに驚かされたのですが、多摩川のダイナミックな風景は不変でした。

川べりに立つと、一気に開ける視界。川面をわたって頬を打つ風。遠景に目のピントが合います。逆光線の中、はるか遠くの富士山のシルエットが飛び込んできました。日常の些事にからめとられて、近くばかり見つめていた私の目の焦点が、ぐぐっと遠方へひっぱられる快感。晴れやかな気分で羽を伸ばしました。多摩川の風景に、心と体が洗われていきました。

ゆるやかに蛇行する川に誘われ、歩はどんどん進みます。川べりを3キロほど歩いたでしょうか。その日、もうひとつ気になっていたテーマがありました。「歌枕」です。「多摩川にさらす手作りさらさらに　何そこの児のここだ愛しき」という歌を生んだその土地に、自分の足で立ち、この肌で空気を感じたかったのです。狛江市に入った土手のあたりで「万葉歌碑」の標識を見つけました。文化2年（1805)、白河藩主・松平定信が揮毫したという堂々たる石碑です。文政12年（1829）の多摩川の洪水で一度は流失したそうですが、大正13年（1924)、定信を崇敬する渋沢栄一らによって再び建立されたことも知りました。

「歌枕」とは不思議な場所です。単なる風光明媚な景勝地をこえて、風景の美しさと人々の想いとが地層のように重なりあい響きあっている。長い時の中で讃えられてきた名所には、アートの魂が宿っているようです。

洪水で流されてしまった碑をなんとか再興させようと奮起した人々の強い思い。歌碑のあたりには、かつての名料亭「玉翠園」があったことも知りました。庭園には老松が茂り、悠々と流れる川のむこうに富士山や丹沢山系が見え、屋形船を浮かべ鮎料理に舌鼓を打つ客たちがいた――夢幻のような光景が浮かんできます。守護神の水神社や新東京百景に選定された「多摩川五本松」も、歌碑の近くで見つかりました。地霊が眠る歌枕の地で、いくつもの秘密を発掘してワクワク。私の「五感で楽しむ多摩川散歩」はまだ始まったばかりです。

私と多摩川

奥多摩町の限りない可能性

蕎麦太郎
代表　船越　章太郎

都心より奥多摩町に移住して早くも８年目。山深い奥多摩町の美しい河川の存在を意識し始めたのはごく最近の事。豊かな自然をたたえる山々より流れ出る良質の水は、やがて河川となって流れ出し、多摩川となって大都会の東京を流れ下る。多摩川をはじめ、奥多摩の河川がこれほど美しかった事に、何故もっと早く気付かなかったのだろう。

この「気付く」という事はとても大切なキーワードであると感じている。

年間を通し、観光を目的として都会から訪れる多くの人々は、この雄大な自然に触れることを目的として来るが、大自然の中で生活をしてきた地元住民はこの恵まれた環境に対して感動が薄れ、あたりまえのものとして感じているようだ。奥多摩の山や川の持つ魅力や素晴らしさ、いとも簡単にこわれてしまう儚さに「気付いていない」のである。

奥多摩の恵まれた環境や魅力を多くの人たちに伝えたいという想いもあり、今年の冬、町の第３セクターが運営する氷川国際ます釣場において、試験的に「蕎麦太郎カフェ」を運営してみる事にした。冬場の可能性を見出す事への挑戦でもあったが、地域の人々が楽しめる場所になる事で、奥多摩を訪れてくれる人々に対する気遣いや愛情も深まるのでは？と感じていた事が、今回の行動を起こすきっかけとなった。

カフェの外の河原
簡易型ソーラークッカーで太陽光エネルギーの勉強

蕎麦太郎カフェ店内の様子

観光客の減少する冬の河川敷き。ロケーションの良さを理解してもらうためには、気軽に足を運べる「憩いの場」において日常を離れてもらい、普段なかなか目に入ってこない景色や時間を楽しんでもらわなければならない。観光客の人々が感じる自然のありがたさを、地域の人たちにも等しく感じてもらうためのきっかけ作りである。その結果、カフェは連日、地元の人々で賑わい、多くの人が目の前を流れる川の美しさを言葉にして帰って行った。この貴重な体験を通して多くの事を知り、確証を得る事が出来たと感じている。それは「奥多摩町には限りない可能性が眠っている」というものであった。

自分同様に「気付かない事」に気付いた人にとって、その目に映るものは一変するため、自主性や環境に対する意識の変化は未来に対してとても重要な役割を果たすと思える。

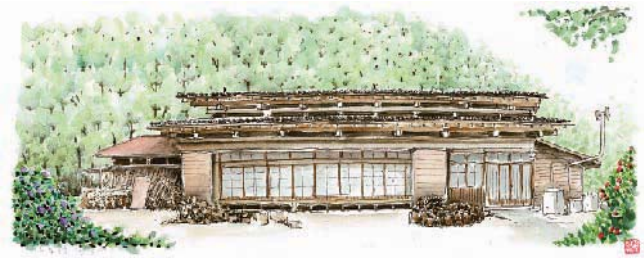
奥多摩の未来に対して我々が何かを仕掛ける事が出来るとしたら、それは大切な物に気付いてもらえるような事であり、共感してくれる人々を結びつける場を作る事であり、その結果、豊かな自然を有する東京都のオアシスとしての可能性が開けていくと感じている。

奥多摩駅よりほど近い多摩川のほとりに佇む「奥多摩温泉もえぎの湯」では今年の３月より、次世代へと繋がる木質バイオマスボイラーの導入を行って稼働させている。住民の意識の変化とハードの変化は緩やかにではあるが着実に進み、未来を変え始めた実感がある。

奥多摩湖や白丸湖においても落下水力発電を行っている奥多摩町が、近い将来、エネルギー政策においてもイニシアチブを取れるような「素敵な夢」を見てもいい頃だろう。

奥多摩温泉もえぎの湯へ導入された木質バイオマスボイラー

① 旧小林家住宅　ＪＲ五日市駅より藤原行バス終点で下車。シャトルバスに乗り換え終点除毛橋まで行きそこから徒歩標高差約 300m の急登約 1 時間。やっとたどり着いたがしっかりアルミサッシで戸締りされ中をうかがうことができない。なぜこの家が国の重要文化財なのかわからない。



② 旧小林家住宅下　①の旧小林家住宅へ行き着く少し手前にあった養蚕農家（実はこの家が重文と思って描いたもの）の換気用の窓の造りは２段出桁（だしげた）造りとでも言うのだろうか素晴らしく、こんな山奥で生産された繭が横浜まで運ばれていたとは、昔の人はすごかった。

④ 都民の森　森林館　森と親しむために奥多摩周遊道路の最高地点付近に作られた。森林館、木材工芸センター、炭焼き窯、レストラン、遊歩道などの施設があり、自然観察のイベントも開かれている。

⑦ 兜造り集落　奥多摩周遊道路の仲の平バス停付近にはまだこのような養蚕農家として造られた兜造りの民家の集落が残っている。この辺り兜造りの家は蛇の湯温泉や旅館などに作り替えられている。

⑪ 浅間嶺　北秋川と南秋川の間にある尾根道は江戸時代には御料林である三頭山への検察道として開かれた道で山桜の並木が名残として残っている。

⑮ 五柱神社の大杉　都内一と言われている大杉で天然記念物。JR 五日市駅よりバス「軍道下」下車徒歩 10 分。民家の裏庭を通ってゆく。近寄ってみると神々しくも圧倒され、周囲の集落よりも拝むようなシンボル。

⑤ 三頭大滝　南秋川の最上流で都民の森の中にある落差 35m の滝。よく整備されたハイキングコースを登り、吊り橋の観瀑台から全長を見ることができる。

⑫ 払沢の滝　ほっさわと読む。檜原村役場より北浅川方向へ行き、よく整備されたハイキングコースを登る。４段の滝の内最下段の滝で、毎年結氷することで有名。平成 22 年 1 月に 75% が結氷したが、その時のスケッチ。

⑩ 養沢神社と大トチの木　五日市駅よりバス「大岳鍾乳洞」下車。すぐ左上にある。苔むした竜のような狛犬に守られる大栃の木は都内では１番であるとのこと。

たまがわスケッチ散歩（6）

画と文 野尻明美（のじりあけみ）
よみうりカルチャーセンター　講師
一級建築士、工学博士（東北大学）
科学技術庁長官賞、紫綬褒章　受章
東急ハンズ大賞クラフトの部　入選
「水彩スケッチと10の活用術」日貿出版社、
他技術書多数

秋川上流域

多摩川最大の支流の秋川は三頭山を源流として流れる南秋川と御前山から流れる北秋川が檜原村役場付近で合流しあきる野市に入る。

さらに、養沢川や三内川などの小河川を集めて川幅を増してゆく。多摩川本流に比べてその流れは緩やかであり、育んでいる文化や生活は穏やかではあるが力強さを感じる。

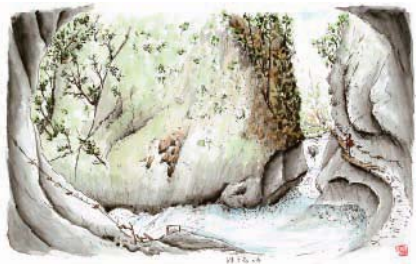
③ **雨乞の滝**　ＪＲ五日市駅より藤原行バス終点で下車。惣岳沢沿いに徒歩約 1.5 時間。水音を頼りに藪に入ると現れる小さいが形の良い滝。山全体が苔むしており夏でも涼しくマイナスイオンたっぷり。

⑥ **九頭竜神社**　バス停「数馬」から奥多摩周遊道路を西に向かい約 20 分道路沿いにある神社。９月第２日曜日に行われる例大祭には都指定の無形文化財の太神楽が奉納される。すぐ左の渓谷は九頭竜の滝となっている。

⑧ **大岳鍾乳洞**　都の天然記念物に指定されている全長 300m に及ぶ鍾乳洞。五日市駅からバス「大岳鍾乳洞入り口」下車。急登約 30 分。大岳沢沿いにある。

⑬ **龍珠院**　春の桜と三つ葉つつじのピンクが寺全体を覆い尽くしまさに花の寺。然し、住職に秋はさらに美しいといわれ、龍珠院から秋川渓谷方面の秋色を描いてみた。

⑯ **石舟橋**　案内には吊り橋と書いてあるが、正確には吊り床板橋という構造で強いプレストレスで両岸に固定されたシンプルな構造。この橋を渡ると瀬音の湯という温泉やレストランを持つ施設があり、橋の下はキャンプ場となっており、夏のシーズンは大いににぎわう。



⑨ **神戸岩**　かのと岩と読む。北秋川の支流神戸川に沿ってうっそうとした小道を登ると突然開けたところに駐車場とトイレのある広場に出る。正面に道をふさぐような大岩があり、観光スポットの神戸岩。その中を神戸川が抜けているが鎖につかまりながらのスケッチ。

⑰ **光厳寺**　こうごんじと読む。樹齢 400 年とも言われている山桜は都の天然記念物。かなりの傾斜地に立っておりすぐ裏は崖。周囲は菜の花畑となっている華やかなスポット。

⑱ **広徳寺**　五日市駅より徒歩約 30 分。広大な寺域を持ち、裏山には手付かずの自然が残っている。境内の山門や総門本堂は江戸中期の作と言われかやぶき屋根の荘厳なもの。境内の桜とアジサイは見事に美しく銀杏の巨木もある。

⑭ **和田向橋**　檜原街道の檜原町役場の少し手前にあるトイレと駐車場の下を流れる秋川渓谷は川底の小砂利が全部見え、ウグイやハヤなどの小魚も足元で戯れるすがしさに心まで洗われる。

⑲ **深澤家屋敷跡**　五日市駅より歩いて１時間。江戸時代の名主深澤家倉から、今でも使えそうな五日市憲法の草案が発見され、当時の文化度の高さを示している。下は馬小屋を兼ねたすきや門と厠。母屋は取り壊されていた。

⑳ **佳月橋**　ダムを持たない秋川はこの辺りまで来ると川幅は広く流れは穏やかとなり、自然林に囲まれた秋のコントラストはあきる野市を代表するようなすばらしい風景。

歴史／多摩川

“象さま”多摩川を渡る

NPO法人多摩川エコミュージアム
理　事　長島　　保
（地域史研究家）

1728(享保13)年6月、交趾国（ベトナム）から牡、牝二頭のアジア象が渡来した。時の江戸幕府将軍は八代吉宗、「大きいもの好き」で、象が見たいといいだした。さっそく、唐船を用いて入貢させたのだ。ところが、うち牝の方が、上陸後間もなく長崎で病死してしまい、残った牡象だけが、多数の宰領らに付き添われて、翌1729年3月に陸路を江戸に向かった。

途中、京都では宮中に参内して、中御門天皇、霊元上皇らの叡覧に浴し（図版2）、洛中の人気をさらったという。たとえ珍獣であろうと爵位がなければ昇殿は叶わぬと、なんと「広南従四位白象」との位階まで授かった。こうして、東海道を一路東へ。箱根の山越えでは長旅の疲れか発病し、予定より数日遅れて5月23日、川崎宿に到着した。御用象＝象さまの御通りとあって、さまざまな規制や守るべき指示がなされての道中だった。

さてここで、大問題が派生。六郷の渡しをどう越えるか。大井川や馬入川など、いままでの川越えは浅瀬を利用した。ここはできない。考えだされたのが、舟橋を架けて渡す方法だ。この舟橋、河中に30余艘の舟を横並べにして、この舟上に長板を敷き詰め、要所、要所に杭を打ちこみ、舟どうしを固定させる仮設の橋だ。明治初年、明治天皇東幸の折に架設されて、浮世絵にも描きだされている（図版1）。

《図版1》
舟橋を使った明治天皇東幸渡御の図（大田区立郷土博物館）

《図版2》享保14年渡来象の図
「国立国会図書館蔵」
（国交省横浜国道事務所HPから）

じつは従来、ほとんどの史書は、舟橋による六郷の渡し越えを、自明のごとく記してきた。たしかに、地元史料にも、舟橋架設を準備する回状が事前に出されている。

下丸子（大田区）の平川家文書では、「御用象江戸着ニ付六郷渡し場舟橋に仰せ付けられ候」として、舟橋架設に要する人足・諸色の差出しを触れている。このときの課役は、六郷領36ヵ村、川崎領26ヵ村に及んだ。

だが、箱根急病の遅延で舟橋架設に影響したか、翌5月24日、御用象は舟橋ではなく、3艘の長舟上に設けられた象部屋に入って対岸へ渡った。地元史料の「川崎宿御用留」に、「渡し場ノ長舟三艘もやい、上ニ象部屋ヲ造ル、莚張リ」と記されている。この事実を最初に指摘したのは、三輪修三氏だ。1992年刊の『大田区史・中巻』に紹介している。

《図版3》
享保14年刊の「象のかわら版」
（石坂昌三「象の旅」から）

かくして御用象、江戸に入府して、浜御殿に落ち着いた。長旅の疲れを癒して5月27日、いよいよ江戸城へ登城。将軍吉宗は、大広間で群臣らを従えて、異国からの象と対面した。　吉宗は、この象がたいへん気に入ったようで、その後13年間も浜御殿で飼育し、その間しばしば江戸城へ呼び出した。

象渡来は、江戸中の大評判となった。「象志」「釧象」「象の声」など書物が出版、「かわら版」（図版3）にも刷られ、袋物や玩具にまで象のデザインが流行した。祭礼の引き物、歌舞伎や錦絵などにも影響を与えた。

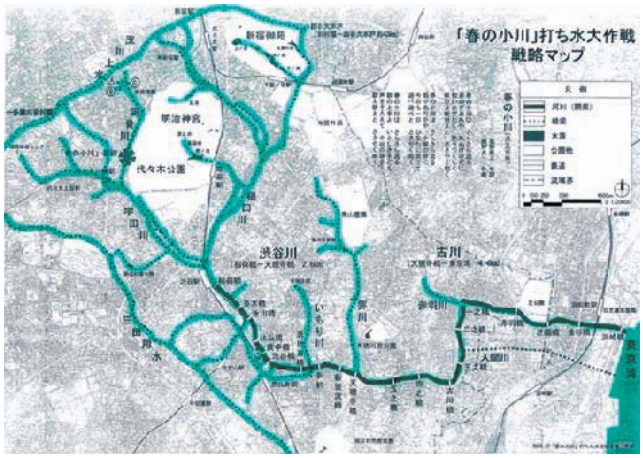
環境 TOPICS

「春の小川」を太陽のもとに

NPO渋谷川ルネッサンス
代表　尾田　榮章

今年は小学校唱歌『春の小川』が世に出て百周年、記念すべき年にあたる。

春の小川の舞台は渋谷川。作詞した高野辰之は渋谷川の支川の支川・河骨川のほとりに住み、周りの景色を詠んだとされる。現在の渋谷からは想像もできないが、わずか百年前にはメダカが遊び、スミレやレンゲの花が咲き、小川の水がさらさらと流れていた。



図―1 渋谷川の現状図（点線部分が暗渠化）

しかしその面影は今はない。特に渋谷駅から上流部は蓋をされて暗渠になり（図―１）、下流部は深く掘りこまれ、コンクリートで側面だけでなく底面までが覆われている（写真―１）。「これでも川か」と思わざるを得ないのだが、それでも時にはセキレイが川面に降り立つ。太陽のもとを流れていればこそである。

写真―1 三面張りの渋谷川（渋谷駅下流）

そんな春の小川を復活させようと取り組んでいるのが「渋谷川ルネッサンス」の仲間たち。NPO の認可を受けて今年で十年、これまた節目の年である。私たちの最終目的は渋谷川の蓋を取り除くこと。しかし残念ながら渋谷川を太陽のもとに取り戻せた区間はまだない。

今春、私たちが取り組んだのが「春の小川パレード」。3 月 20 日に「春の小川を復活しよう」と渋谷の街をパレードした。インターネットで参加を呼び掛け、栓抜きの持参をお願いした。「蓋を開ける」のは栓抜きとの洒落である。

当日、大きな栓抜きを掲げる先頭役のフジタ帝国さんの掛け声にあわせ、アート風のメガホンを手に参加者は沿道の人たちに春の小川の再生・復活を呼びかけた。

「春の小川の蓋を取り払おう」との呼び掛けに「シュポ」と応えるシュプレヒコールに加え、「Open the River, Open your mind」と繰り返した。世界に訴え、世界と共に歩むというのが我々の願いでもある。

参加者の多くは私たちの仲間であったが、うれしいことに新たに加わってくれた人達がいる。特に印象深いのが韓国からの参加者。強い勧誘を受けての参加であったが最後まで一緒に歩いてくれた。共通語はなかったが、私たちを結んだのは「清渓川」の一言。蓋をされた上に高架道路までが走る清渓川が復活再生したのは今から 7 年前のこと、私たちはこれまで長い間交流を続けてきたのである。

30 万人のソウル市民が集った開通式典の後の光景が忘れられない。市民が復活した川に入り歩き出した（写真―４）。この光景こそが私たちの活動の原動力の一つである。

写真―4
清渓川（チョン・ゲ・チョン）の開通式の後の光景

渋谷川と多摩川は玉川上水で結ばれていた。羽村堰で取水された水が江戸の町中に供給され、その余剰水が渋谷川に流されていた。この結びつきを復活させれば渋谷川に水を呼び戻すことができる。

現在も水路は残っている。後は水の使い方の問題、東京都民が使う水道用水の 3% を節水すれば、渋谷川に約 $1m^3$／秒の水を流せることができるのである。

世界の大都市東京の中心部に水の流れを呼び戻せる。己の努力の成果をわが目で確認でき、その恩恵を享受できるのである。我々自身が今後に心躍る思いがしている。

インフォメ 多摩川

多摩川流域の各種団体等の６月から９月頃まで行われる環境活動に関する主な行事・イベント情報を紹介いたします。

☆ 美しい多摩川フォーラム

○第４０回調布市環境フェア出展（６月２日）
○第５回多摩川一斉水質調査実施（６月３日）
○多摩川“水”大学講座（６月８日：調布市文化会館たづくり学習室）
○美しい多摩川フォーラムの森（青梅）下刈りイベント（６月１６日）
○多摩川っ子（第５号）発行（７月上旬）
○狛江古代カップ第２２回多摩川いかだレース参加（７月１５日：狛江市）
○多摩川“水”大学講座（７月２０日：調布市文化会館たづくり学習室）
○第５回子どもカヤック体験教室開催（７月２１日：青梅市）予備日２８日
○多摩川１万人の清掃大会参加（８月５日：青梅市）
○第４回炭焼き体験と水辺の交流会開催（８月１７日：青梅市）予備日２０日
○多摩川“水”大学講座（９月２１日：調布市文化会館たづくり学習室）
（問い合せ先）美しい多摩川フォーラム事務局（青梅信用金庫　地域貢献部内）　担当：宮坂／土方／及川
TEL：０４２８－２４－５６３２　FAX：０４２８－２４－４６５０
E-mail：forum@tama-river.jp　URL：http://tama-river.jp

☆ 多摩川自然観察会　「多摩川を歩き・見て・考える」

○６月１７日（日）「干潟館」前からガス橋左岸まで（右岸と左岸）　京急大師線「東門前」駅集合９時３０分
青梅から河口までの間でおそらく最もつまらない区間でおもしろさを探し出すのが本会の特技。距離の長さを忘れて自然の息吹に触れられることでしょう。
○９月１日（土）夕方　日野万願寺地先　多摩モノレール「万願寺」駅集合　１６：００、解散　２０：００
夕食（弁当）後、恒例の＜鳴く虫を聴く会＞を行います。野生のスズムシとマツムシの演奏が聞かれることを祈って夕方から夜の自然を観察します。
（申込問合せ）多摩川自然観察会　柴田隆行
TEL　０４２－６３６－０９０２　E-mail:fbstein @ cocoa.plala.or.jp

☆ がさがさ水辺の移動水族館

○美しい多摩川フォーラム水質調査参加
・６月２日（土）９時～１４時（要申し込み　実費１人千円）
・集合：　多摩区稲田公園魚の家から多摩川へ徒歩１分
川崎市内地区全域を網羅します。川の中を歩きますので、胴長をお持ちの方は持参して下さい。または濡れても良い服装と靴（サンダル不可）が必要です。ライフジャケットが必要です。レンタルご希望の方は申し込み時にお知らせ下さい。
○多摩川観察会（魚類・外来種・定置網網巻揚げ体験）
・６月３日（日）１４時～１６時（要申し込み　全年齢，小学生以下は保護者同伴　実費１人千円）
・集合：　多摩区稲田公園魚の家から多摩川へ徒歩１分
多摩川でたも網で魚採りと、外来種調査用に仕掛けてある定置網の網揚げ体験をします。川の中を歩きますので、胴長をお持ちの方は持参してください。または濡れても良い服装と靴（サンダル不可）が必要です。胴長やライフジャケット、魚を捕る網や入れ物が必要です。レンタルご希望の方は申し込み時にお知らせ下さい。
○ＮＨＫラジオ第１放送「つながるラジオ」出演　１６時～１７時　ダイヤル（周波数５９４ KH ｚ）
・６月５日（火）または６日（水）（申し込み不要）
多摩川の自然や魚、おさかなポストの話
○中央大学講演会
・６月９日（土）　詳しくはお問合わせ下さい。
・集合：中原区武蔵小杉　ホテル精養軒
多摩川の自然や魚、おさかなポストの話
○多摩川観察会（魚類・外来種・定置網網巻揚げ体験）
・６月１０日（日）１４時～１６時（要申し込み　全年齢，小学生以下は保護者同伴　実費１人千円）
・集合：　多摩区稲田公園魚の家から多摩川へ徒歩１分
多摩川でたも網で魚採りと、外来種調査用に仕掛けてある定置網の網揚げ体験をします。川の中を歩きますので、胴長をお持ちの方は持参してください。または濡れても良い服装と靴（サンダル不可）が必要です。胴長やライフジャケット、魚を捕る網や入れ物が必要です。レンタルご希望の方は申し込み時にお知らせ下さい。
○多摩川観察会（魚類・外来種・定置網網巻揚げ体験）
・６月１７日（日）１４時～１６時（要申し込み　全年齢，小学生以下は保護者同伴　実費１人千円）

・集合：　多摩区稲田公園魚の家から多摩川へ徒歩１分
多摩川でたも網で魚採りと、外来種調査用に仕掛けてある定置網の網揚げ体験をします。川の中を歩きますので、胴長をお持ちの方は持参してください。または濡れても良い服装と靴（サンダル不可）が必要です。胴長やライフジャケット、魚を捕る網や入れ物が必要です。レンタルご希望の方は申し込み時にお知らせ下さい。

○多摩川観察会 (魚類・外来種・定置網網巻揚げ体験)
・６月２４日 (日) １４時～１６時（要申し込み　全年齢, 小学生以下は保護者同伴　実費１人千円）
・集合：　多摩区稲田公園魚の家から多摩川へ徒歩１分
多摩川でたも網で魚採りと、外来種調査用に仕掛けてある定置網の網揚げ体験をします。川の中を歩きますので、胴長をお持ちの方は持参してください。または濡れても良い服装と靴（サンダル不可）が必要です。胴長やライフジャケット、魚を捕る網や入れ物が必要です。レンタルご希望の方は申し込み時にお知らせ下さい。

○多摩川観察会 (魚類・外来種・定置網網巻揚げ体験)
・７月１日 (日) １４時～１６時（要申し込み　全年齢, 小学生以下は保護者同伴　実費１人千円）
・集合：　多摩区稲田公園魚の家から多摩川へ徒歩１分
多摩川でたも網で魚採りと、外来種調査用に仕掛けてある定置網の網揚げ体験をします。川の中を歩きますので、胴長をお持ちの方は持参してください。または濡れても良い服装と靴（サンダル不可）が必要です。胴長やライフジャケット、魚を捕る網や入れ物が必要です。レンタルご希望の方は申し込み時にお知らせ下さい。

○多摩川観察会 (魚類・外来種・定置網網巻揚げ体験)
・７月８日 (日) １４時～１６時（要申し込み　全年齢, 小学生以下は保護者同伴　実費１人千円）
・集合：　多摩区稲田公園魚の家から多摩川へ徒歩１分
多摩川でたも網で魚採りと、外来種調査用に仕掛けてある定置網の網揚げ体験をします。川の中を歩きますので、胴長をお持ちの方は持参してください。または濡れても良い服装と靴（サンダル不可）が必要です。胴長やライフジャケット、魚を捕る網や入れ物が必要です。レンタルご希望の方は申し込み時にお知らせ下さい。

○多摩川観察会 (魚類・外来種・定置網網巻揚げ体験)
・７月１４日 (土) １４時～１６時（要申し込み　全年齢, 小学生以下は保護者同伴　実費１人千円）
・集合：　多摩区稲田公園魚の家から多摩川へ徒歩１分
多摩川でたも網で魚採りと、外来種調査用に仕掛けてある定置網の網揚げ体験をします。川の中を歩きますので、胴長をお持ちの方は持参してください。または濡れても良い服装と靴（サンダル不可）が必要です。胴長やライフジャケット、魚を捕る網や入れ物が必要です。レンタルご希望の方は申し込み時にお知らせ下さい。

○民家園通り　夏祭り　出展
・７月２１日 (土) １６時～２１時（申し込み不要　全年齢　無料）
・集合 : 登戸駅または向ヶ丘遊園駅徒歩３分の線路沿い
アユのつかみ取りや千潟のカニ釣り、多摩川すくいなどでお祭りを盛り上げます。

○菅小　三沢ガサ
・７月２２日（日）９時～１２時（申し込み不要　全年齢　小学生、保護者同伴　無料）
・集合：南武線稲田堤駅または中野島駅徒歩１０分の多摩川三沢川合流付近
子どもは三沢川でたも網で魚採り、大人は美化活動です。川の中を歩きますので、濡れても良い服装と靴（サンダル不可）が必要です。半袖半ズボンでの参加はできません。

○川崎海洋環境教室　マリエン
・７月２８日（土）時間未定（要申し込み　小学生、保護者同伴（川崎市民・勤労者）
・集合：川崎区東扇島東公園　川崎の浜
海で魚採りや潮干狩りをします。地曳き網を曳いて魚類調査をし切歯し、人工海浜の自然復活を学びます。
川崎港湾協会への申し込みが必要です。詳細はお問合わせ下さい。

○多摩区　夏休み多摩川教室
・８月４日（土）１０時～１４時（要申し込み　全年齢　小学生以下は保護者同伴　実費１人千円）
・集合：多摩区稲田公園魚の家前の多摩川
多摩川でたも網で魚採りと、外来種調査用に仕掛けてある定置網の網揚げ体験、ボートアドベンチャー、スイカ割り、天然アユの試食、脚立飛び込み台で遊びます。泳ぎますので濡れても良い服装と靴（サンダル不可）が必要です。胴長やライフジャケット、魚を捕る網や入れ物が必要です。レンタルご希望の方は申し込み時にお知らせ下さい。

○三沢川灯篭流し
・８月１１日（土）１７時～２０時（申し込み不要　全年齢　小学生以下は保護者同伴　無料）
・集合：多摩区稲田堤の三沢川
詳細未定　ホームページにて告知します。

○世田谷区　夏休み多摩川教室
・８月１２日（日）１０時～１５時（要申し込み　全年齢　小学生以下は保護者同伴　実費１人千円）
・集合：世田谷区砧地区
世田谷区母子寡婦福祉連合会、詳細はお問合わせ下さい。

○多摩川観察会 (魚類・外来種・定置網網巻揚げ体験)
・８月１８日 (土) １４時～１６時（要申し込み　全年齢, 小学生以下は保護者同伴　実費１人千円）
・集合：　多摩区稲田公園魚の家から多摩川へ徒歩１分
多摩川でたも網で魚採りと、外来種調査用に仕掛けてある定置網の網揚げ体験をします。川の中を歩きますので、胴長をお持ちの方は持参してください。または濡れても良い服装と靴（サンダル不可）が必要です。胴長やライフジャケット、魚を捕る網や入れ物が必要です。レンタルご希望の方は申し込み時にお知らせ下さい。
○登戸灯篭流し
・８月２２日（水）１７時～２０時（申し込み不要　全年齢　小学生以下は保護者同伴　無料）
・集合：多摩区登戸
詳細未定　ホームページにて告知します。
（問い合せ・連絡先）ガサガサ水辺の移動水族館・おさかなポストの会　代表　山崎充哲
メールアドレス　RiverRanger777@gmail.com　　TEL: ０９０－３２０９－１３９０

☆ 財団法人　世田谷トラストまちづくり

○初夏のバードウォッチング～二子玉川付近の多摩川河川敷
・６月２３日　午前９時３０分～１１時３０分　※要申込
○ツバメのねぐら入り観察会～東京都水道局砧下浄水場付近多摩川河川敷
・７月２８日　午後５時３０分～７時３０分　※要申込
○野川せせらぎ教室～世田谷区成城四丁目付近の野川
・９月９日　午前９時３０分～１１時３０分　※要申込
○世田谷トラストまちづくりビジターセンター「身近な自然と触れ合うミニイベント」
～世田谷区成城４－２９－１（野川沿い）
・原則毎月第１土曜日　午後１時３０分～３時　※要申込／TEL03-3789-6111
（申込・問い合せ先）（財）世田谷トラストまちづくり　トラストまちづくり課
TEL ０３－６４０７－３３１１　FAX ０３－６４０７－３３１９
財団 HP　http://www.setagayatm.or.jp/

☆ GeoWonder 企画　むさしの化石塾

○テーマ「多摩川の化石から、古環境を復元しよう」
むさしの化石塾では，多摩川で見つかる化石教材をヒントに，環境教育や自然科学の学習を行っております.
ご関心のある方は，どうぞお気軽にメールにてお問い合わせ下さい。
※当日の教材や参加内容は，後日参加者にご案内します.
■開催予定日（６月～９月)・６／２３(土)・７／２８(土)・９／２２(土)　　※８月はお休みです.
日　時：１４時００分～１６時００分　（２時間）
場　所：武蔵村山市中央３－２０－７　むさしの化石塾　教室内
最　寄：武蔵村山市役所前バス停下車徒歩３分 参加費：２,０００円
※都度５名定員締め切り　要・事前申し込み　連絡先：geo@extra.ocn.ne.jp
◎　メールにて住所・氏名・学年など，連絡先を明記の上，送信下さい.
※　最新日程は「むさしの化石塾ブログ」でご確認ください.
（申込・問い合せ先）むさしの化石塾　福嶋まで
携帯：090-1769-8020　　ＦＡＸ：042-567-1095　Web 申込　E-mail：geo @ extra.ocn.ne.jp まで

☆ みずとみどり研究会　「身近な水環境の全国一斉調査のお知らせ」

平成元年（１９８９年）より多摩川水系で「身近な川の一斉調査」として、流域で活動する市民団体が水質調査を継続して実施してきました。平成１６年（２００４年）には「身近な水環境の全国一斉調査」として、多摩川水系だけではなく全国で一斉に水質調査が実施されるようになりました。
今年の実施については下記の日程で予定されています。参加のお申込みは既に終了していますが、ご興味、関心のある方はみずとみどり研究会までお問い合わせください。
・全国一斉調査日　２０１２年６月３日（日）
・測定項目　気温、水温、ＣＯＤ（パックテスト）
・測定方法　調査マニュアル、調査キットに基づき測定
（お問い合せ先）みずとみどり研究会
連絡先　〒185-0021　東京都国分寺市南町 2-1-28　飯塚ビル 202
TEL/FAX 042-327-3169　E-mail：mizutomidoriken@ybb.ne.jp
ホームページ　http://www.japan-mizumap.org/

■平成24年度　研究助成金　受領者一覧■

1 新規　学術研究

（単位：円）

No.	研究課題	代表研究者	所属	研究期間	2012年度助成金額
1	多摩川流域における都市部から山間部へかけての生物間相互作用の変異と環境教材開発：植物ー送粉者系をもちいて	堂囿いくみ	東京学芸大学教育学部自然科学系広域自然科学講座環境科学分野　准教授	2年	1,997,000
2	多摩川流域における放射性物質による河川水と土壌などの汚染状況調査と放射線・水環境を学ぶ市民教室の構築	吉田　政高	NPO千葉健康ネットワーク　理事	2年	1,969,000
3	多摩川流域の水生昆虫類の遺伝的構造	倉西　良一	千葉県立中央博物館　上席研究員	2年	1,971,120
4	多摩川上流域の山地斜面における深層崩壊に関する地形・地質学的研究	苅谷　愛彦	専修大学文学部環境地理学研究室　准教授	2年	1,757,800
5	首都圏の酸性雨の広域・長期観測データの解析に基づく多摩川流域への環境影響評価	田中　茂	酸性雨問題研究会　代表世話人（慶應義塾大学理工学部　教授）	2年	1,000,000
6	森林の分断化に伴う生物種の絶滅リスク評価および優先保護区域の抽出：多摩丘陵における複数の種群・スケールの生物多様性を対象とした複合研究	小池　伸介	東京農工大学森林生物保全学研究室教授	2年	2,664,000
7	多摩川生息魚類における漁病細菌の分布調査の展開	間野　伸宏	日本大学生物資源科学部　専任講師	2年	2,085,000
合　計（7件）					13,443,920

2 新規　一般研究

（単位：円）

No.	研究課題	代表研究者	所属	研究期間	2012年度助成金額
1	多摩川を溯った江戸・東京の民俗「地口行灯と祭り」	岡崎　学	羽村郷土研究会	2年	173,000
2	玉川上水の分水の沿革と概要	小坂　克信	日野市立七生緑小学校　非常勤講師	1年	344,100
3	多摩川流域における絶滅危惧種サシバの生態に関する調査研究	山口　孝	多摩クマタカ生態調査チーム	1年	506,720
4	第4回多摩川流域市民学会の開催	長谷川博之	昭島環境フォーラム	1年	640,000
5	多摩川流域の里山にトウキョウサンショウウオの産卵地を復活させるための調査・研究	飛騨　紀子	青梅カエル池プロジェクト	2年	388,760
6	源流景観の探求と「多摩川源流景観シンポジュウム」の開催	木下　正之	小菅村源流景観計画策定委員会委員長	1年	1,000,000
合　計（6件）					3,052,580

3 継続　学術研究

（単位：円）

No.	研究課題	代表研究者	所属	研究期間	2012年度助成金額
1	多摩川流域環境保全データベース検証用webGIS構築に関する研究	宮林　茂幸	多摩川源流研究所	2年	1,855,000
2	病原性菌を含むスーパー多剤耐性菌の多摩川における存在調査	浦野　直人	東京海洋大学海洋学部海洋環境学科教授	2年	703,050
3	多摩川の水温変化の実態と形成要因に関する研究	木内　豪	東京工業大学大学院総合理工学研究科　准教授	2年	350,000
4	多摩川における絶滅危惧Ⅰ類アサクサノリの生育特性、繁殖特性および保全対策	嶌田　智	お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科　准教授	2年	2,000,000
合　計（4件）					4,908,050

4 継続　一般研究

（単位：円）

1	多摩川水系の小学校教師を対象とした多摩川環境学習の実態調査および問題解決に向けた学習支援とその教材開発	竹本　久志	NPO多摩川塾　理事	2年	700,000
2	玉川上水中流部におけるアライグマと中型哺乳類の生息状況	片岡　友美	NPO生態工房　理事	2年	289,400
合　計（2件）					989,400
総　合　計（19件）					22,393,950

「いきもののつながり」環境紙芝居 15 のおはなし

No.7　雑木林の春のいきものの様子

春の雑木林では、草木が一斉に芽吹き、太陽エネルギーを浴びて活発に光合成を始めます。植物が生長すると、それを食べる昆虫もたくさん現れます。幼虫の餌になる植物に産卵しようと、様々な昆虫が植物に集まります。昆虫に受粉を手伝ってもらうために、花を咲かせて昆虫を誘う植物もあります。そして花粉や蜜は昆虫の餌になり、さらに多くの昆虫を育みます。

野鳥にとっては、食欲旺盛なヒナを育てるために昆虫は欠かせない餌です。そのため、多くの野鳥が春に子育てをします。

春には植物がどんどん生長し、その植物を昆虫が食べて増え、野鳥は昆虫をヒナに与えて育てるのです。こうして自然のいとなみはすべて循環しています。

ところで雑木林には、根元から幹が分かれた木があちこちに生えています。石油やガスが普及するまで、人々はそれらの木を薪や炭にして使っていました。クヌギやコナラは、根元で切っても切り株からたくさん芽を出し、15～20 年で再び薪や炭に適した太さの木に成長します。昔の人は、切り株から芽をふく力が強いクヌギやコナラを森の樹木の中から選んで植え、切っては芽を育てる方法を繰り返してきました。だから根元で幹が分かれているのです。

そして秋には落葉するので、落ち葉を集め堆肥にして畑の肥料にしました。最近では燃料は石油やガスに、肥料は化学肥料になり、放置される雑木林が増えました。管理されなくなった雑木林は、ササが生い茂り荒れていきます。

絵のなかに、白く可愛い花をうつむきかげんに咲かせているチゴユリ（稚児百合）と葉が細長い紫のスミレがひそんでいます。見つけてみましょう。

絵：東郷なりさ

「いきもののつながり」制作プロジェクト
代表　下重　喜代

発行　サステナブル・アカデミー・ジャパン
E-mail：kiyo-sun@nifty.com

当財団の概要（2012 年 6 月 1 日現在）

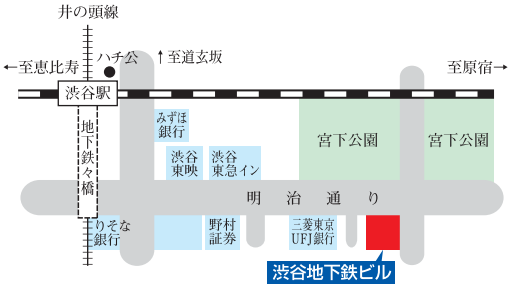
設　　立	2010 年 10 月 1 日
主務官庁	内閣府
基本財産	975 百万円
財　　源	基本財産等の運用収入並びに寄付金
事業内容	研究助成事業
1 研究助成	総助成件数　1,112 件
	（新規 524 件，継続 588 件）
	総助成金額　1,316 百万円
2 学習支援	副読本制作配布　260 千部
印刷刊行物	研究助成成果報告書学術編
	研究助成成果報告書一般編
	財団だより（季刊）3,800 部
	環境副読本（毎年）15,000 部

役員・評議員

（敬称略 50 音順）

[理事長]	西本定保	東急行電鉄株式会社　顧問
[理事]	新井喜美夫	当財団　元理事長
	石渡恒夫	京浜急行電鉄株式会社　取締役社長
	植木正威	東急不動産株式会社　取締役会長
	大須賀頼彦	小田急電鉄株式会社　取締役会長
	小川春男	亜細亜大学　学長
	加藤奐	京王電鉄株式会社　取締役会長
	小長啓一	東京急行電鉄株式会社　取締役
	小沼通二	東京都市大学　名誉教授
	櫻井孝顕	第一生命保険相互会社　相談役
	中村英夫	東京都市大学　総長
	中村良夫	東京工業大学　名誉教授
	涌井史郎	東京都市大学　教授
[常務理事]	馬渕広三郎	当財団　事務局長
[監事]	岩田哲夫	東京急行電鉄株式会社　常勤監査役
[評議員]	井原國芳	東京急行電鉄株式会社　顧問
	海老原大樹	東京都市大学　名誉教授
		同大学等々力中学校・高等学校　校長
	上條清文	東京急行電鉄株式会社　取締役相談役
	越村敏昭	東京急行電鉄株式会社　取締役会長
	後藤ヨシ子	横浜商工会議所　副会頭
	鈴木學	株式会社　日立製作所　執行役常務
	高橋裕	東京大学　名誉教授 / 選考委員長
	鳥井信吾	サントリーホールディング株式会社　取締役副社長
	水田寛和	株式会社　東急百貨店　相談役
	山口裕啓	学校法人　五島育英会　理事
	山田長満	川崎商工会議所　会頭
	横溝英樹	株式会社　東芝　総合営業推進部長
[選考委員]（◎は委員長）	◎高橋裕	東京大学　名誉教授
	奥山文弥	東京海洋大学　客員教授
	小倉紀雄	東京農工大学　名誉教授
	小堀洋美	東京都市大学　教授
	小宮輝之	（公財）東京動物園協会　常務理事
	斎藤潮	東京工業大学大学院　教授
	新藤静夫	千葉大学　名誉教授
	鈴木信夫	昭和女子大学　客員教授
	田畑貞寿	（公財）日本自然保護協会　理事長
	寺西俊一	一橋大学大学院　教授

● 発　行　日　平成 24 年 6 月 1 日
● 編集兼発行　公益財団法人 とうきゅう環境財団
〒 150－0002　渋谷区渋谷 1－16－14
（渋谷地下鉄ビル 8F）
TEL　（03）3400－9142
FAX　（03）3400－9141
ホームページ　http://www.tokyuenv.or.jp/



※印刷所　雄文社　〒 330-0061 さいたま市浦和区常盤 9－11－1　TEL（048）831－8125